

恒例の秋の大収穫祭が10月27日(土)あおぞらばん屋さんで開催。5月より関係者との準備会議を行ってききましたが、当日は心配していた天気も良く、書道家イベント・ライブ・移動販売等が取り入れられたお蔭もあり、全体入場者数は昨年より倍増(約800人)となる盛況振りでした。

福祉健康部のテントの方も沢山の方々にお手伝い頂き、大人気の大長みかん・農産物販売等もほぼ完売状態でした。最後に行われたくじ引き抽選会は非常に盛り上がり、秋の収穫祭は多少のハプニングはあったものの皆様の協力のもと、成功裏に終えることが出来たと実感しています。

最後にご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。

小谷小学校区市民協働まちづくり協議会
福祉健康部会
溝手博



小谷大収穫祭



収穫祭来場者、山口穂様より

長年、小谷地区に住んでいます。実は今年初めて収穫祭に参加させて頂きました。飲食ブース、あおぞらばん屋さんのパンはもちろんのこと、温かい食べ物や地域の野菜など、目移りする程でした。イベントでは、子どもたちが喜ぶゲームやスタンプラリー、ステージイベントと盛りだくさんで驚きました。何よりよかったのは、餅付きです。餅つき体験では、子どもは当たり前のこと、大人にも声をかけて下さり、臼の周りは笑顔でいっぱいでした。そのつきたてのお餅をぜんざいとして振る舞って頂きました。座っている人たちにも優しく声をかけて配って頂き、心も体も温まった収穫祭。来年もまた参加したいです。

小谷秋の大収穫祭から学んだこと

地域やゲストの方のご協力により、たくさん笑顔を見ることができた小谷秋の大収穫祭。「被災された地域の方々へ元気を届けよう」をテーマに取り組んできたその想いは、皆さまの心に届いたでしょうか。

西日本豪雨災害から約半年が経ちます。当たり前のようには開催できるといふ気持ちを変え、開催できる幸せや感謝の気持ちをこれからも大切に繋いでいきたいと思っています。

この度の大収穫祭を通じて復興の一助となればと、売り上げの一部を日本赤十字社に寄付させていただきました。わずかではございますが、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

大収穫祭 実行委員会

事務局 瀧岡 哲



実践につながる人材育成研修

利用者の生活を豊かに

「瀧岡さんありがとう。またやろうの」と満面の笑みで声を掛けて下さる利用者さん。

西の池学園の利用者さんは高齢の方が多く、何か出来ることはないのかなと感じていました。その思いを行動に移せるきっかけとなったのが、当法人が4年前から取り組んでいる、人材育成研修でした。グループで意見を出し合い、課題をあげ、2か月後のプレゼンテーションに向けて実践していく研修です。私達のグループでは、脱衣場に大きなのれんをつけ、音楽を流しながら日替わりの入浴剤を入れて湯を楽しむ「西の池温泉」を企画し、利用者さんは「ええの〜」と大喜びでした。日中空いた時間を利用し、職員が以前のギターで引き語りをしたり、抹茶を立てて茶菓子と一緒にもてなしたり、高齢の方でも楽しめる企画を毎週実践しました。利用者さんは活動を楽しみにされ、「次はいつ?」と笑顔で聞いてこられます。利用者さんの笑顔が増えると、自然と施設全体の雰囲気も温かくなったように感じました。これからも利用者さんが楽しい毎日を送れるよう職員皆で案を出し合い取り組んでいきます。

西の池学園

支援員 瀧岡 峰花



「見える化」の取り組み

総務では今年の人材育成研修の活動として「整理整頓・見える化」をテーマに取り組んでいます。「いまさら整理整頓?」と思われるかもしれませんが、物でも仕事でも、整理した状態にすることで、整理した状態を保つことはとても大切なことです。

整理できていけば必要な情報をすぐに探せます、また次の仕事にも効果的に生かすことができます。必要な情報が見つからない! 同じようなデータをイチから作ってしまう! 流用したデータが古くてやり直し! なんてことがなくなります。特に総務のような事務仕事は主な仕事ではこの差はとても大きなものとなります。また、この整理整頓、簡単そうに見えて実はなかなか奥深いものです。

整理するためには適切な要、不要の選別・優先順位づけ、保存方法、場所の検討が必要になります。また、整理した状態を保つには適切な運用・管理が必要です。

総務でも試行錯誤を繰り返していますが、少しずつでも前に進めるように継続して取り組んでいきたいと思っております。

総務 松井 猛朗



before



after

いらっしゃいませー!
あおぞらばん屋さんへ



みなさんこんにちは。11月1日より、多機能型事業所あさひよりあおぞらばん屋さんへ異動してきました塔迫里美です。出勤するとパンの焼けるいい匂いがして、朝から幸せな毎日を過ごしています。あおぞらばん屋さんの一番の売りは、何と言っても絹のようになめらかなくしゅともつと「おいしい」、また食べたい」と言ってもらえるパンを利用者さんと一緒に作り販売したいと思っています。よろしくお願ひします。



※誌面の写真、名前については、ご本人の同意を得て掲載しています。